



さかもと

さわやかに かがやいて もくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sakamoto/>

## 子どもの一生懸命さは、大人を動かす力がある

副校長 柴田 耕治

総合的な学習の時間の取組が各学年学級で創造的に展開されるようになり、今年度は数名の児童が学級やグループを代表して副校長・校長に相談に来るケースがいくつもありました。

5年生のあるクラスは、自分たちの育てた花で作品を作り、募金活動につなげて「国際児童基金」「東日本大震災復興支援」の活動に協力したいと考え、坂本ふるさと祭でその計画を実行しました。11月の終わりごろ、あるグループの子どもたちが、「協力してくれた皆さんに、報告とお礼の気持ちを伝えたい。」「そのために、地域の掲示板を使わせてほしい。」「そのことを手紙にするので、自治会・町内会の会長さんに届けたい。」という考えを、3人で副校長のところに伝えに来ました。いくつかやり取りした後、わたしは聞きました。

「いち早く届けたいなら、郵便が確実。住所は、このラベルを使えばいいです。…ところで、切手はありますか。」

急にお金のことを持ち出され、5年生は一瞬戸惑いました。わたしは続けました。

「あ、そうだ。皆さんお金、もってますね。募金でたくさん集まったんでしょ。」

5年生の3人は顔を見合わせ、相談しながら互いに言い聞かせるようにこう言いました。「そうか…。でも、それはできないよ。だって、募金はそのために集めていないし、募金どきに『そういう使い方もします』って、わたしたち言ってないし。だから、だめ。」

そうです。募金で集まったお金は自分たちのお金ではないのです。5年生の子どもが、自分たちの「責任」をしっかりとわきまえて判断したのです。

その後、掲示板使用の依頼文は1月の学校だよりとともに、報告・お礼のポスターは2月の学校だよりとともに、いずれもPTA 校外委員さんとそのお子さんのご協力のもと、自治会・町内会長さんに届けていただけようになりました。

3年生のあるクラスは、自分たちで野菜を育てる楽しさと難しさを体験しつつ、仏向町・川島町の「まちなかの農家さん」を応援する「ほどがや朝市」の取組と継続的にかかわってきました。その3年生が1月に入り、「チラシを配りたい」という相談に来たのです。

目的・意図や方法についていくつかやり取りをした後、試しに、こう聞き返しました。

「では…みなさんは、朝市の農家さんの『お金儲け』のお手伝いがしたいんですか？」

想定外の質問に、3年生は一瞬固まり、すぐに返す答えが見つからないようでした。どうする、ここで副校長先生の説得に失敗したら、計画が止まってしまう…。もしかすると、そういう沈黙だったかもしれません。そこでわたしが「つまり…」と、補助発問をしようとした瞬間です。2列目に立っていた子が、目を見開いて一歩前に進み出てきてこう言いました。

「ちがうんです！…『おいしい』んです。とって『おいしい』んです。でも、売れ残った野菜は捨てられちゃうんです。」

わたしは、その勢いに圧倒されました。子どもたちは、農家のMさん、朝市を主催するほどがや産直便のWさんに優しくしてもらって、本当においしいものをいただいて、本気で「お返しがしたい」と思っているのです。

誰かのために役に立ちたい。そのために自分（たち）にできることはなんだろうか。そういう一生懸命な優しさは、わたしたちの心に響いてきます。子どもが瞳を輝かせて夢を語るようになり、教師はその実現に向けて共に歩む。そういう坂本小学校でありたいです。